

令和 5 年度 たまの版CCRsea懇談会 議 事 概 要

日 時	令和 5 年 11 月 24 日（金） 13：30～15：00																							
場 所	玉野市役所 3 階 特別会議室																							
出席者 (敬称略)	<p>【委 員】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">岡山理科大学専門学校 動物系部長</td> <td style="width: 40%;">五嶋 幹雄</td> </tr> <tr> <td>玉野市医師会 会長</td> <td>渡邊 正俊</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 事務局長</td> <td>大賀 英明</td> </tr> <tr> <td>玉野商工会議所青年部 特別理事</td> <td>岡崎 晋典</td> </tr> <tr> <td>公益社団法人玉野市観光協会 専務理事</td> <td>金川 洋一</td> </tr> <tr> <td>うのづくり実行委員会 委員長</td> <td>森 美樹</td> </tr> <tr> <td>特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク</td> <td>斉藤 牧枝</td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">玉野市 政策部 部長</td> <td style="width: 40%;">中嶋 英生</td> </tr> <tr> <td>総合政策課 課長</td> <td>河田 正人</td> </tr> <tr> <td>総合政策課 行政管理室長</td> <td>藤本 修平</td> </tr> <tr> <td>総合政策課 生涯活躍のまち推進室長</td> <td>山本 貴之</td> </tr> </table>		岡山理科大学専門学校 動物系部長	五嶋 幹雄	玉野市医師会 会長	渡邊 正俊	社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 事務局長	大賀 英明	玉野商工会議所青年部 特別理事	岡崎 晋典	公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	金川 洋一	うのづくり実行委員会 委員長	森 美樹	特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク	斉藤 牧枝	玉野市 政策部 部長	中嶋 英生	総合政策課 課長	河田 正人	総合政策課 行政管理室長	藤本 修平	総合政策課 生涯活躍のまち推進室長	山本 貴之
岡山理科大学専門学校 動物系部長	五嶋 幹雄																							
玉野市医師会 会長	渡邊 正俊																							
社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 事務局長	大賀 英明																							
玉野商工会議所青年部 特別理事	岡崎 晋典																							
公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	金川 洋一																							
うのづくり実行委員会 委員長	森 美樹																							
特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク	斉藤 牧枝																							
玉野市 政策部 部長	中嶋 英生																							
総合政策課 課長	河田 正人																							
総合政策課 行政管理室長	藤本 修平																							
総合政策課 生涯活躍のまち推進室長	山本 貴之																							
配布資料	<p>資料 1 たまの版 CCRsea 懇談会委員名簿</p> <p>資料 2 たまの版 CCRsea 懇談会設置要綱</p> <p>資料 3 玉野市審議会等の会議の公開に関する要綱</p> <p>資料 4 第 2 期たまの版生涯活躍のまち基本計画</p> <p style="padding-left: 20px;">①令和 4 年度 事業実施報告</p> <p style="padding-left: 20px;">②令和 4 年度 成果目標の自己点検</p> <p>資料 5 第 2 期たまの版生涯活躍のまち基本計画の取組</p> <p>参考資料 第 2 期たまの版生涯活躍のまち基本計画（冊子）</p>																							

議 事

1. 開 会

2. 開会あいさつ

3. 委員の紹介

4. 座長選任

- ・事務局より、これまでの懇談会にて座長を務めていただいた岡山理科大学専門学校動物系部長 五嶋幹雄氏を、座長へ推薦したいとの提案あり。

→ 委員全員より拍手。異議なしということで、五嶋氏の座長就任が決定。

5. 懇談会の運営方針について

- ・事務局から、会議の進行は座長である五嶋氏が行うとの説明あり。

6. 議事

- ・事務局から、第2期たまの版生涯活躍のまち基本計画～第2期たまの版CCRseaプロジェクト～を参考に、資料4①. 事業実施報告、②成果目標の自己点検、資料5「これまでの取り組みの振り返り」「今後の取組について」について説明。

→ 主な質疑は以下のとおり。

委員A : 資料2の設置要綱第1条において「たまの版CCRsea(若者が軸となる生涯活躍のまち)形成プロジェクト」となっているが、CCRCとは Continuing Care Retirement Community (コンティニューイング ケア リタイアメント コミュニティ) という高齢者を軸に据えた構想であることから、高齢者も含めて“老若男女を軸”とした方がよいのではないか。

観光に関しては、宇野駅には多くの観光案内があるが、その観光地に行くための交通網が整っていない。また、高齢者の外出の機会を増やしていくためにも公共交通施策を中心に交通網の発達に取り組む必要がある。

移住者に関して、若者はある程度増えている印象があるが、高齢の移住者の状況はどうなっているのか。

事務局 : 玉野市の場合、当初から若者を軸にしつつ、高齢者も含めた全世代の健康づくりを推進するというところでスタートしている。

3つの基本施策に沿った様々な事業を実施しているところであり、公共交通運営事業、健康診断事業、移住促進事業、また観光PRといった事業の方は資料4のとおり充実してきていると考えている。また、設定した成果目標については、資料4②のなかで自己評価をしているとおりである。

この生涯活躍のまち基本計画の理念や基本目標は、令和5年4月からスタートした新たな総合計画の中に盛り込まれた形となっていることから、今後は総合計画に沿って各事業を推進していきたいと考えている。

委員A : ローカルブランディングの創出はうまくいっているのか。

事務局 : 地域特性を活かしたまちづくりについては、第1期以降宇野エリアを中心に創業が増えるなどの活性化が見られている。既存の町並みを維持しながらも、新しいものを取り入れることで、魅力的なまちづくりに繋がっていると考えている。

委員A : 若い人たちが集まってくるためには、雇用の確保が大切になると思うが、今ひとつ雇用が増えているようには思えない。高齢社会の今、高齢者の再雇用に関する検討を進めていく必要があると思う。

委員B : 逆に市内企業からは人材不足で困っているという話も聞く。この先人材不足が続けば、事業継続が難しくなるというところまで危機感を持っている事業者もいる。就職希望者と求人者とをマッチングできるような仕組みがあるといい。

委員C : 津山の企業団地が全て埋まり、多くの求人を募集した結果、既存の地元企業で人材不足が生じてしまった、という話を聞いた。大きな企業が来たからといって、従業員を連れてくるわけではないため、求人のマッチング問題に関しては緻密に考えなければいけないと感じた。

観光入込客数に関しては、実績が目標を上回っているということで、素晴らしい成果である。一方で、この実績をキープするためには同程度の投資を継続していかないといけないというのは、大きな課題と思う。

移住者に関しても素晴らしいと思うが、前年実績よりは減少している。目標数は超えているが、もう少し目標値の難易度を上げるなどの検証が必要だったのではと感じた。

雇用者数に関しては、若者の雇用者数を目標としていたにもかかわらず、事業全体の数値を載せて自己評価しているというのは、ずれているように感じた。

委員D : 昨年の瀬戸内国際芸術祭は、新型コロナウイルスの関係で海外からの客が見込めない中で、かなり健闘したと思う。ただし、成果を積み上げていく

ためには、3年に1度の限定的な取組ではなく、継続的な取組を考えていく必要があると思っている。

シティセールスについても、今回かなりの予算規模となっているが、実際どこまでの情報が、県内外へどれだけ届いたのかとか、アクセス解析だとかそういった効果検証もあれば良かったと思う。

委員B : 旅色の冊子は目にとまりやすく、手に取られた方からはとても好評だった。これをきっかけに移住を検討して、玉野に来てくださった方もおられたので、一定の効果はあったと思っている。

事務局 : 数字で表すのは難しいが、動画を見たよという声も相当数届いており、多くの閲覧回数も獲得している。最近では、岡山市も違うタレントを起用して取り組んでおり、広報に関しては一つのブランドとなっており、効果的な取組だったと考えている。

委員D : 素敵な冊子や動画ができたなと思った。動画は再生回数が確認できるので、効果測定もしやすい。

委員A : 瀬戸内国際芸術祭の開催時期以外でも直島には多くの観光客が来ている。直島への通過地点であることを観光にうまく利用できればいい。

委員E : 第1期生涯活躍のまち基本計画で実施したイベントの参加者からは、『風光明媚な景観からホテル、温泉施設まである玉野というところはすごい』という感想が多く聞かれた。今後CCRseaの取組は、新たな総合計画の中に取り込んで繋いでいくという話も出てきたが、風光明媚な景観など玉野が持つ魅力について、具体的なアピールを進めていっていただきたい。

委員A : 生涯活躍のまち基本計画では、文化とか音楽とか、そのような施策に関しては記載がない。健やかな老後生活を送るためには芸術鑑賞など有効であることから、そういった事業にも取り組んでいただきたい。

事務局 : 芸術・文化に関しては、新たな総合計画で“心豊かな人生がおくれる文化が薫るまち”を基本方針のひとつに掲げている。文化振興にも力を入れていこうということで、いま可能性を検討している状況である。

委員C : 玉野市では観光や、PR・広報にすごくお金をかけているが、これらの取組で毎年進んでいる人口減少が止められるか、というとそうでもない。同じ

く芸術ホールを作ってそれが止められるか、というところでもない。そう考えたとき、本当に大切なことは何かということには不安を感じる。

委員A : 新しく建物を建設せずとも、無駄なことをやめて、既存のもので対応するというのも一つの方法ではないかと思う。

委員C : 芸術ホールがあるにこしたことはない。学校で吹奏楽を学んでいる子が、発表の場がないという話も聞くので、それは勿体ないと思う。

委員A : 新しいものを創造することは、コストがものすごくかかる。それよりも、今あるものをうまく利用できるかどうか、これからの行政運営には重要になってくると思う。人口減によって予算も減っていくから、なるべく無駄なことをやめて、可能なところで対処していくのがいいと思う。

委員F : 資料4②成果指標のうち観光入込客数については、カウントの基準設定が難しい。例えば、深山公園の来場者数はレジ通過数を基準としてカウントしているが、実際には深山公園自体にはもっとたくさんの来場者がある。カウント基準を見直すことでPR力は高まると思うので、いかにして来場者の数をカウントするかは検討の余地があると思う。

深山公園には多くの来場者があり、そこから宇野駅周辺にも人を運びたいと思うが、そこについてはまだうまくいっていない。駅周辺に観光の目玉となるようなスポットがあれば、状況も変わってくるのではないかなと思っており、今検討中である。

委員E : 私も深山公園にはよく行くが、確かにそこから先へは何か目的がないとなかなか行けない。宇野にある温泉施設の隣に設けられたキャンプ場には多くの利用がある。自然が多い地域なので工夫をして、ソフトの面でも考えながら進めていけば何か良いものができるのではないかと考えている。今後、観光客が増えていき、そこから移住者の獲得に繋がっていくというのも、玉野市の発展にとって大きなポイントになると思う。

委員F : 深山公園の魅力のひとつに500台近い無料の駐車場がある。逆に、車の来場者を宇野駅まで案内しようとしたときに、無料の駐車場がない。それから築港周辺の店舗が独自の駐車場を持っていないので、どこに止めればいいのかという話が出てくる。最近は民間のコインパーキングも増えてきたが、大規模の無料駐車場を新たに作るというのは難しいと思う。代替案として、築港商店街の店舗で飲食したら駐車場料金の割引をするというよう

な仕組みがあれば、もっと人も来やすいと思う。

委員E : 深山公園の来場者向けに、宇野駅周辺のコインパーキングの位置が分かる地図のようなものを深山公園に置くというのもいいのではないか。

委員A : 逆に、観光の人たちは車がないため、深山公園には行けない。高齢者向けの移動手段の検討も必要だが、観光客向けの交通網も必要だと思う。

委員B : 今、玉商店街も新しい店が年に1件ずつぐらい増えてきている。玉商店街にも駐車場問題はあるが、近隣の三井生協の協力により店舗駐車場のうち10台分を商店街用に提供いただいている。これで、商店街の店舗に行きやすくなったという声を聞く。

委員C : その地域に住んでいる人や、高齢者の住みやすさというところを考えたとき、移動手段の問題も大きな課題だと思う。例えば玉地区に夜ご飯を食べに行ったが、帰るときに足がないから帰れないという話を結構聞く。玉原地区では、山の上にたくさんの家がある。そこに住んでいる高齢者は、どうやって買い物に行くのか。市の施策の中でシーバス・シータクがあるが、少子高齢化が進むなか、もっとコンパクトにやれるのではないか。

委員E : これまでの意見をまとめると、市民にとっても、観光客の方にとっても、スムーズに移動ができるまちづくりを進める必要がある。観光については、玉野には他に誇れる素晴らしい景観や資源があるので、その情報を、もう一度整理して情報発信していく。

　　今後は、みなで知恵を絞りながら総合計画のなかで取組を進めていくというのがいいと思う。既存の事業も工夫をしていくことで、新しいエッセンスを取り入れていきながら、このCCRseaで掲げた生涯活躍のまちというビジョンを今後も目指して行って欲しい。そのように皆さんの意見があったように思う。

事務局 : 皆様からいただいた貴重な意見については、今後の総合計画を軸としたまち作りの方に活かしていきたいと考えている。

7. 閉会

以上